

研究休暇：ハワイでの夢の日々と交通事故と

佐野 信子（スポーツウエルネス学科教員）

はじめに

私は2018年4月1日から2019年3月31日までの1年間、貴重な研究休暇をいただきました。研究休暇に入る前には、この1年間の研究と休養に充てて、心身ともにリフレッシュした姿で2019年4月1日からの復活を目指そうと決めていました。

この頃は、この研究休暇が心身ともに波乱にみちた1年間になるとは、予想だにしていなかったのですが…。

ハワイでのプレ調査とはじめてのフラレッスン

この1年間をかけて、研究では、ハワイの中学校の学校体育の状況を視察し、日本の中学校の学校体育との差異を明らかにしようと計画しました。また、実技では、本学での授業で担当できる種目を増やせるようにとフラの習得にも努めようしました。

そこで、4月8日にハワイ入りし、ハワイ大学の体育学科長で、共同研究者となつていただくMurata先生やハワイでの本調査をさせていただく各中学校の体育の先生に挨拶をしにそれぞれ訪れました。また、1対1でのフラのレッスンを、日本にも教室をもたれる3人の先生にお願いし、日本で継続してレッスンができる準備をして4月22日に日本に戻りました。

前年度の疲れがまだ残っていましたが、以前共同研究でトロントでの調査を実施した時以来、さらに一人での正式な海外調査としては、はじめてのものとなるので、気を張り詰めて挨拶等をいたしました。3校にアポイントメントを取り、体育の授業を見学し、体育の先生とお話しさせていただきましたが、どの先生方もとても熱心でいらっしゃり、また、私の質問にも丁寧にご回答くださいました。授業の内容は、各校様々でとても興味深いものでした。

A校は低所得者層の方々が多く住まわれている土地柄ということもあり、通学すれば必要に応じて朝ごはんが供される、というシステムでした。訪問日の体育の授業内容は日本でいうところのフィットネスで、生徒たちは程度の差こそあれ課される課題に真剣に取り組んでいました。事前に、ハワイでの体育授業では、

スポーツを教える、というよりは、体の動かし方を教えることを重視すると聞いていたので、納得して授業を見学していました。しかし、一人の生徒が授業の途中で私のところに寄ってきました。その生徒は、昨年度まで日本に滞在し（流暢な日本語を話してくれたので滞在歴は長いと思います）、日本の体育の授業を受けていた、ということで、「(フィットネス重視の) ハワイの体育より、(スポーツ重視の) 日本の体育の方が面白かったよ」と教えてくれました。私には、日本の体育の授業より、ハワイの体育の授業の方が進んでいるとの思い込みがあり、この発言にはかなり衝撃を受けました。もちろん、一人の生徒の言葉で全てを判断するのは危険ですが、一人の生徒の言葉を汲み取らないことも危険と私は考えているので、この生徒の言葉は、プレ調査中ずっと私の心にひっかかりを残しました。

B校は郊外にある私立の学校です。A校と比較すれば、大分所得の高い保護者のもとで暮らしている生徒達に通っている、とのことでした。そのような目で体育施設を見回せば、トレーニングマシンも充実しており、さながら小さなフィットネスクラブのような設備が完備されていました。見学させていただいた授業は、それらのトレーニングマシンも利用しながら、大縄を使つてのフィットネスも組み込まれるなど、生徒達はローテーションでそれらの運動をしていきます。体育教師もかなり意識が高く、授業前には、その日の授業について目的をしっかりと生徒達に伝え、実技後には、その日の振り返りをノートに記入させていました。生徒達の様子をみると、先生の意識の高さによって満足しながら授業を展開しているようでした。

C校は、ハワイ大学に隣接しており、ハワイ大学の教員とも交流のある学校でした。B校同様、運動施設は充実しており、生徒達の家庭も富裕層の者が多いということでした。この学校では、幾分スポーツの要素を取り入れた授業をしていました。印象的だったのは、フィットネスに充てられる時間よりはスポーツに充てられる時間の方が生徒達はいきいきと楽しそうにしていたことです。A校での生徒からの耳打ちもあり、この観点からC校の授業をもっと見学したり、生徒や先生方の生の声をもっと伺いたいと切に思いました。

一方、一對一のフラレッスンは、どの先生も素晴らしく、初めてフラを体験する私に3人の先生が3人3様にレッスンしてくださいました。腰を落とした格好で踊り続ける点など、私の専門種目である太極拳と似た要素もあり、日本に帰国してから深く学んでいきたい、と強く思いました。

ハワイ大学とハワイ州のIRB取得に向けて

日本に戻ってから本調査の間は、ハワイ大学とハワイ州のIRBを取得すること

が必要である旨、共同研究者のMurata先生から連絡があり、取得するための準備をしました。日本でこのような資格を取得した経験が少ない私は軽く考えておりましたが、実際のところは、非常に準備は難しく、許可をいただくまでかなりの時間を要しました。時間はかかりましたが、ハワイ大学で知り合いになった日本人の先生らの応援をいただき、なんとか取得することができました。しかし、研究対象が中学校の生徒と先生のため、生徒を対象にすることについては、なかなか許可が下りず、結局、公立校では、先生のインタビューしか許していただけませんでした。そして、私立校でも授業見学（ビデオカメラでの撮影は不可）と先生対象のインタビューしか許可は出ませんでした。生徒を対象としたインタビューなど、生徒のプライバシーに関わることの許可をいただくことが非常に難しいことを強く実感しました。折角、ハワイまで足を延ばすので、生徒の意識を掴みかかった私には残念な結果でしたが、限定されたものであるものの調査ができることは嬉しく感じました。

思わぬアクシデント

自分でも（もしかして、一番！）驚いていますが、IRBの準備をしていた7月19日に交通事故に遭いました。タクシーで移動中のことです。助手席の後ろの後部座席に座っていた際、急ブレーキをそれはそれは思い切りかけられ、体が上半身と下半身が捻じれた形で前方に飛び出しました。救急車が呼ばれ、病院に搬送されましたが、事故直後はさほど大きな痛みはありませんでした。しかし、事故当日から数日後に、左脚股関節に耐えられないほどの痛みが襲ってくるとは、この時点では全く予想できませんでした。確か2日後のことだったと思います。朝、起床した際に、左脚に違和感を抱きました。そうです。現在でも続く痛みが始まったのです。非常に暑かった今年の夏、左脚を引きずりながら汗を流しての病院通いが始まりました。まずは、事故当日運ばれた病院に向かいました。MRI撮影などをしていただき診断を仰いだのですが、「腰椎にヘルニアがあるが、それは、この事故が原因ではないだろう」とのことでした。その時、患者の私としては、原因も知りたいけれど、それよりもなによりもこの痛みをどうにかして欲しい、という気持ちでいっぱいでした。痛み止めの飲み薬やシップを処方いただき、対処療法として痛みを逃がしましたが、原因が分からないので薬が切れればまた痛みが始まる、という連鎖の繰り返しとなりました。1年以上経過した今でも痛みは止まらず、2週間に1度のブロック注射と驚くほどの量の飲み薬を処方されております。

最後に—いつか実現させたいハワイ本調査—

先述の通り、今でも私は左脚股関節痛に苦しんでいます。少し長い距離を歩いたり、重いものを持ち運んだりするだけでも、その日の夜中に痛みで目が覚めます。このような体では、ハワイでの本調査は難しいと考えております。

一日でも早くこの痛みから解放され、ハワイで自由自在に動き回り、調査ができることを夢見ております。ハワイの中学校の体育の時間にみた生徒達の明るい笑顔が忘れられません。また、トライアル調査で耳打ちしてくれた、日本の体育とハワイの体育を体験された生徒の言葉からは、書物からでは分からない、生の声が伝わってきました。頭ごなしにハワイの体育が素晴らしいとの思いを抱いて調査をするのではなく、先入観無しに両者を比較してみることの重要性を再確認することができました。

本調査ができた際には、この「まなびあい」で報告させていただければと存じます。ハワイの体育、日本の体育のそれぞれ優れているところ、逆に、劣っているところを見極め、子どもたちの可能性を十分に活かせる体育授業を模索し続けたい、と考えております。

この研究を遂行するにあたりましては、コミュニティ政策学科の山口綾乃先生に多大なご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。